



## 大栄中学校の底力！

9月7日（土）に開催しました運動会には、多くの保護者、地域の皆様にお越しいただき無事終了することができました。生徒たちの全力の演技に大栄中学校のパワーを感じました。どの生徒も勝負にはこだわりながらも、運動会を盛り上げよう、良い運動会にしよう、そして何より運動会を楽しんでいる姿を見て、大変すがすがしい気分になりました。

また、伝統を繋ぐだけではなく、準備や練習を通して、友だち同士の繋がりがより強くなり、大栄中ソーランや組立体操では学年の枠を超えて繋がることで一体感を生み、地域との交流で繋がり、何より、準備してきたこと、練習してきたことが今日の本番へ繋がりました。いろいろな部分で「繋がり」ということが感じられた運動会でした。そんな大栄中学生は、まさに生徒会スローガン「天晴～あっぱれ～」そのものだと感じました。是非、運動会を通して学んだことを、今度はこれからの学校生活に「繋げて」ほしいと思います。



北栄町家庭教育12か条 9月「子どもは大人の鏡 ～社会のルールは大人が見本～

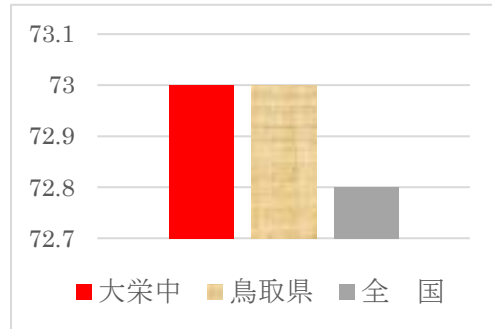
## 令和元年度全国学力・学習状況調査について

今年度の結果を分析し、本校の取り組みに生かしていきます。＝ 分析の概要をお知らせします ＝

### <分析と考察>

国語は全国と同程度（+0.2%）、数学は全国・県と比較して上回っている（+1.2%）。さらに本年度より調査の始まった英語においても全国・県より上回っている（+1.0%）。

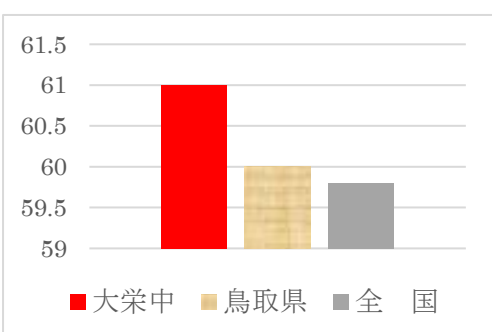
### 【国語】



領域別では「書くこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において全国や県の平均を上回る反面、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」で下回る。さらに問題別で見たときは、出題の趣旨が「～について、自分の考えを持つ」となっているものが軒並み全国平均を下回っている。この要因として、読者として文章の内容だけでなく書き方についても評価できるような視点や経験の不足や、事実と自分の考えや感想を整理して書く態度の不十分さが思い当たる。

年間指導計画に沿いながら、読み方や書き方を客観的に捉え、評価できるような指導にポイントを置き、一斉学習と個別指導のバランスをとることで改善していきたい。

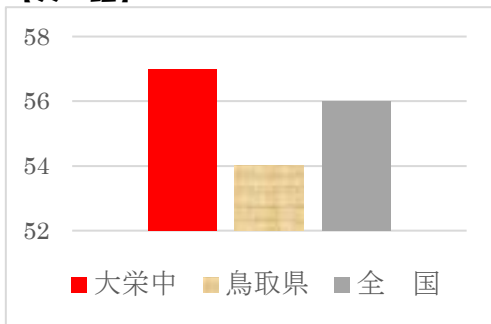
### 【数学】



数学の「図形」「関数」の領域で、正答率が全国・県と比べて下回っている。特に「図形」領域が全国平均に比べて1.6ポイント下回っており、「ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ問題」や「図形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF = CE$ になるかを説明する問題」「 $\triangle ABC$ を矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める問題」に課題が残っている。日々の授業で再度確認して反復練習していく必要があり、数学的活動を丁寧に行い、具体的な図形を示しながら用語を理解し、筋道を立てて説明できるように、解法の仕方を確認していきたい。

「関数」の領域では「冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、二つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する問題」に課題が残っている。生徒の実態に応じたきめ細やかな指導をしていくことが重要である。かつ発展的な問題や難解な問題に対して「分かった」と実感できるよう生徒同士で説明し合って解決したり、粘り強く取り組んだりしていけるよう授業の班の話し合いの場面の設定を工夫していきたい。

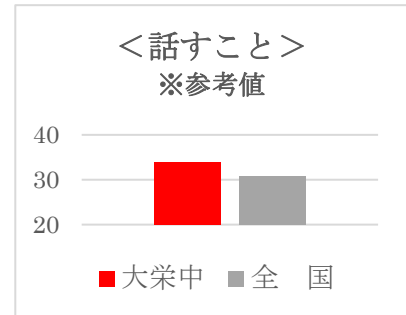
## 【英語】



領域別では、全国平均と比べて、「聞くこと」で1.0ポイント、「読むこと」で1.9ポイント上回っている一方で、「書くこと」で0.4ポイント下回っている。「話すこと」(参考値)では、全国平均より3.2ポイント上回ってはいるものの、全国的に正答率が低い。英文を聞いたり読んだりして理解する能力はある程度身につけているが、書いたり話したりして表現する力に課題があるといえる。問題形式別に見ると、「選択式」は1.5ポイント、「短答式」は0.4ポイント全国平均より上回ってはいるが、「記述式」で2.1ポイント下回っており、意見や考えを英文で表現することに課題がある。問題

別で見ると、「日常的な話題について、情報を正確に聞き取る」問題や、「日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取る」問題では全国平均を大きく上回っているが、「聞いて把握した内容について、適切に応じる」問題や、「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある英文を書く」問題に課題がある。

今後の授業の中で、自分の意見や考えを英語で話したり書いたりして表現するような場面の設定を工夫していく必要がある。



## <生徒質問紙の結果について>

### 【教科に関する質問：国語】

肯定的回答が全国平均を上回った項目は、

- ・「国語の授業の内容はよくわかる」
- ・「文章で解答する問題に粘り強く取り組んだ」

肯定的回答が全国平均をかなり下回った項目は、

- ・「国語の勉強が好き」
- ・「国語の勉強は将来社会で役に立つ」
- ・「自分の考えを話したり書いたりする」

### <考察>

2項目以外のすべての質問事項に対して肯定的な回答が全国平均を下回る。単純な質問に終始し、しっかり思考する学習が不足している可能性がある。やりがいのある言語活動を仕組みながら、その意味を伝え、思考し、表現する学習を取り入れたい。国語の楽しみも有用感もそこから生まれるだろう。幸い真面目で粘り強く問題に取り組もうとする態度は見取れる。

### 【教科に関する質問：数学】

肯定的回答が全国平均を上回った項目は、

- ・「数学の勉強が好き」
- ・「数学の勉強は大切だと思う」
- ・「数学の授業内容はよくわかる」
- ・「数学の勉強は将来社会で役に立つ」
- ・「最後まで解答を書こうと努力した」

肯定的な回答が全国平均を下回った項目はなし。

### <考察>

数学が普段の生活の中で役に立つと思い、授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている生徒が多くいる。また、最後まで解答を書こうと努力した生徒の割合も全国平均に比べて高く、粘り強く解こうとしている様子が伺える。その一方で、数学の勉強は大切だと思っているが、数学の勉強は好きではないと答えている生徒の割合がやや高いため、数学に対する関心や意欲を高めるとともに、他教科や実生活に生かすような意識を持たせたい。

### 【教科に関する質問：英語】

肯定的回答が全国平均を上回った項目の内、

特に肯定的な回答がかなり上回っている項目は、

- ・「英語の勉強は大切だと思う」
- ・「数学の授業内容はよくわかる」
- ・「自分の考えなどを英語で伝え合っている」
- ・「スピーチなど、英語で発表している」
- ・「生徒同士で英語で意見を述べ合っている」
- ・「自分の考えなどを英語で書いてまとめている」

肯定的な回答が全国平均を下回った項目はなし。

### <考察>

「英語の勉強が好き」、「授業がよく分かる」では、全国平均より上回ってはいるものの、否定的な生徒も一定数存在している。学習意欲に関わる項目なので、達成感や満足感のある授業づくりをしていき、肯定的な生徒数が増えるような努力をしていく必要がある。

学習指導要領で求められているような活動が授業では概ねできてきているように思われる。今後はその取り組みが生徒の学力向上につながるように、生徒が意欲を持って取り組める工夫をし、単発的な活動ではなく、長期的で計画的な指導計画を工夫していきたい。

※次回は、「生徒の生活や意識に関する質問」の結果についてお知らせします。